

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限
運用方針	ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献する企業の株式に投資します。個別企業調査を基本としたボトムアップ・アプローチを重視した銘柄選択を行います。
主要投資対象	国内の上場株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合には、制限を設けません。外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分配方針	毎決算時(9月20日。休業日の場合は翌営業日)に、利子、配当収入および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないこともあります。

# 朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド 愛称〔あすのはね〕

第23期

(決算日 2023年9月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「朝日ライフ SRI 社会貢献ファンド」は、2023年9月20日に第23期の決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社  
東京都杉並区和泉一丁目22番19号

<お問い合わせ先>

ホームページ： <https://www.alamco.co.jp/>

フリーダイヤル：0120-283-104

〔受付時間〕 営業日の午前9時～午後5時

○本報告書の表記について

・原則として、数量、額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数で表記する場合があります。－印は、組入れ、異動などの該当がないことを示します。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税金分配	期騰落率	[参考指数]	期騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
19期(2019年9月20日)	9,336	0	△11.3	1,616.23	△9.6	87.1	－	3,890
20期(2020年9月23日)	10,008	90	8.2	1,644.25	1.7	83.1	－	4,068
21期(2021年9月21日)	10,068	1,100	11.6	2,064.55	25.6	93.8	－	4,153
22期(2022年9月20日)	9,148	0	△9.1	1,947.27	△5.7	90.0	－	4,210
23期(2023年9月20日)	10,059	170	11.8	2,406.00	23.6	93.4	－	4,510

(注) 基準価額および分配金は1万口当たりの値です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みで計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注) 当ファンドでは運用目標とするベンチマークを設定していないため、参考指数としてTOPIX(東証株価指数)を掲載しています。TOPIXをはじめとする株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社(以下「J P X」という)が算出・公表する株価指数(以下「TOPIX等」という)は、J P Xの知的財産であり、TOPIX等の算出、数値の公表、利用などTOPIX等に関する権利はJ P Xが所有しています。(以下同じです。)

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		TOPIX(東証株価指数)		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	[参考指数]	騰落率		
(期首) 2022年9月20日	円	%		%	%	%
9月末	9,148	－	1,947.27	－	90.0	－
10月末	8,726	△4.6	1,835.94	△5.7	88.7	－
11月末	9,065	△0.9	1,929.43	△0.9	92.6	－
12月末	9,161	0.1	1,985.57	2.0	93.5	－
2023年1月末	8,478	△7.3	1,891.71	△2.9	91.8	－
2月末	8,784	△4.0	1,975.27	1.4	90.9	－
3月末	8,783	△4.0	1,993.28	2.4	95.3	－
4月末	8,958	△2.1	2,003.50	2.9	91.8	－
5月末	9,096	△0.6	2,057.48	5.7	94.0	－
6月末	9,369	2.4	2,130.63	9.4	93.4	－
7月末	10,034	9.7	2,288.60	17.5	95.9	－
8月末	10,119	10.6	2,322.56	19.3	94.0	－
(期末) 2023年9月20日	10,210	11.6	2,332.00	19.8	90.9	－
	10,229	11.8	2,406.00	23.6	93.4	－

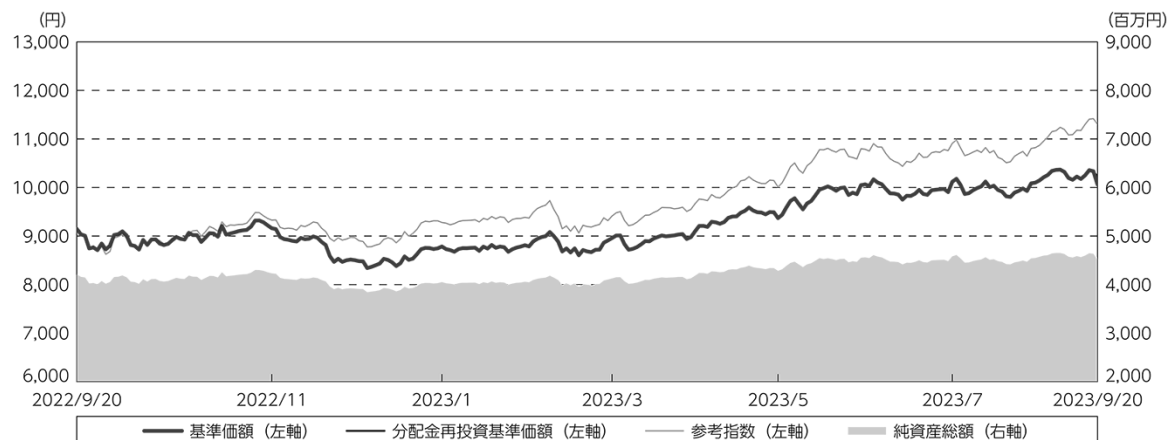
(注) 基準価額は1万口当たりの値です。

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比で計算しています。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

## ◎運用経過(2022年9月21日～2023年9月20日)

### ○当期中の基準価額等の推移



期首：9,148円

期末：10,059円(既払分配金(税込み):170円)

騰落率：11.8%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

### ○基準価額の主な変動要因

期初から2023年3月にかけての前半期には、米国でのインフレ鈍化の兆し、為替市場での円安進行、中国でのゼロコロナ政策の解除などが主な上昇要因となった一方、日銀による長期金利の許容変動幅拡大が事実上の利上げと受け止められたこと、米国の銀行の経営破綻による信用不安などに加えて、保有銘柄の業績見通しの悪化などが下落要因となりました。

一方、4月から9月までの後半期では、日銀による大規模な金融緩和策の維持と為替市場での円安進行、国内企業の堅調な業績見通しや積極的な株主還元の発表、新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたこと、米国でインフレ懸念が後退したことなどに加えて、保有銘柄の業績見通しの改善が上昇要因となりました。

## ○投資環境

当期の株式市場は、2022年12月までは、米金融引き締めペースの鈍化の見通しや為替市場での円安進行などを背景に強含みの展開となりました。2023年の年明けから3月にかけても、米国でのインフレ鈍化の兆しや、中国でのゼロコロナ政策の解除による景気の押し上げ期待を背景に、堅調な相場展開が続きました。

4月以降については、日銀が金融緩和の維持の決定、為替の円安進行、国内企業の堅調な業績見通し、積極的な株主還元、新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたことに伴う経済活性化期待により、大きく上昇しました。

## ○当ファンドのポートフォリオ

期初から2023年3月までの前半期では、為替市場での円安進行などを背景に株式市場は底堅く推移したものの、保有銘柄の業績見通し悪化による株価下落により、基準価額は軟調に推移しました。個別銘柄ではプレミアグループ、オリンパス、丸井グループ等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、ニトリホールディングス、住友林業、芝浦電子等の株価上昇がプラスに寄与しました。

後半期に入ってから株式市場が上昇基調となる中、好業績銘柄を中心とした株価上昇が基準価額を押し上げました。個別銘柄ではカチタス、オリンパス、オイシックス・ラ・大地等の株価下落がマイナスに寄与しましたが、豊田通商、住友林業、トヨタ自動車等の株価上昇がプラスに寄与しました。

当ファンドでは投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターン拡大にとって最も重要な要素であると考え、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築し、企業価値向上の観点から株主と経営のベクトルが一致しているサステナブルな企業への選別投資を行いました。その一方で、株価が上昇し割高な水準に達した銘柄や、調査の結果、業界の魅力度や競争優位性が低下したため将来に向けて企業価値の拡大が難しくなったと判断した銘柄を売却することで、ポートフォリオの魅力度を一層高めました。

この結果、当期において味の素、オムロン、東京応化工業、小松製作所、カチタス等を新たに組み入れました。一方、フジミインコーポレーテッド、SOMPOホールディングス、ニトリホールディングス、小糸製作所、大成建設等について保有株式をすべて売却しました。

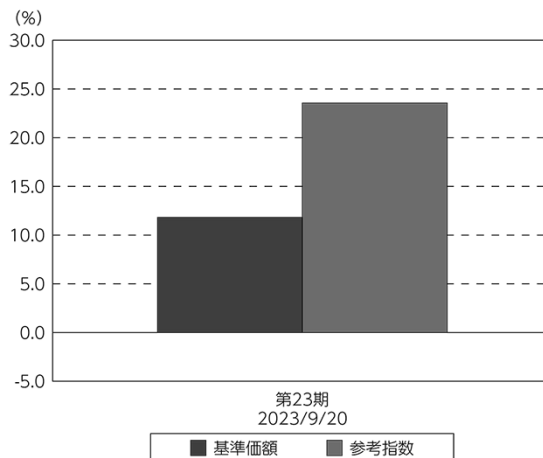
## ○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークはありません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数が23.6%上昇したのに対し、基準価額は11.8%の上昇となり、参考指数を11.7%下回る結果となりました。当期の株式市場は、景気回復や為替市場での円安進行を背景とした業績見通しの改善が続く中、特に景気動向に影響を受けやすい大型の割安株が上昇を主導する展開となりました。そうした中、当ファンドのポートフォリオ特性として収益性や財務基盤が強い企業の保有が多く、反対に景気感応度の高い割安株の保有比率が低いことや、保有銘柄の一部で業績見通しが悪化したこと等が、参考指数に対して劣後する要因となりました。

基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込み(税込み)です。

## ○分配金

当期の分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準などを勘案して、1万口当たり170円とさせていただきます。

なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第23期
	2022年9月21日～ 2023年9月20日
当期分配金	170
(対基準価額比率)	1.662%
当期の収益	170
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	868

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期分配金と一致しない場合があります。

## ○今後の運用方針

当ファンドの運用の特色は、短期的な業績動向だけでなく、中長期的な視点に立った企業価値分析を行うことにあります。特に財務的要素に加えて、環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)といった非財務的要素を統合した分析を行うことで、その企業の本質的価値とそのサステナビリティ(ESG要素を含む中長期的な持続可能性)を見極めていきます。

企業価値分析においては、サステナビリティを考慮する際に、企業価値に影響を与える重要なESG課題に焦点を当てます。企業活動に関係するESG要素は多岐に渡りますが、当該企業が行う事業(業種)や戦略にどのようなビジネス機会やリスクをもたらすかという観点から、課題を特定し分析を行います。

今後も投資先の企業価値の向上は、中長期的な投資リターンの拡大にとって最も重要な要素であると考え、持続的な成長が期待できる市場で、ステークホルダーを味方につけて競争優位を構築しているか、企業価値向上に向けて株主と経営のベクトルが一致しているかといった観点から、投資先企業の選定を行います。

また、特定のベンチマークや市場のトレンドへの追従は意識せず、ビジネスを通じて社会的課題に積極的に取り組み、社会に貢献するサステナブルな企業を厳選し、安い株価で集中度を高めて買い、企業価値の成熟と株価の上昇を狙う運用を行うことで、高い投資成果の獲得を狙います。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年9月21日～2023年9月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	181	1.958	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(112)	(1.210)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 61)	(0.660)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 8)	(0.088)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.075	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際に支払う手数料です。
( 株 式 )	( 7)	(0.075)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.007	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用です。
( そ の 他 )	( 0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	189	2.040	
期中の平均基準価額は、9,231円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

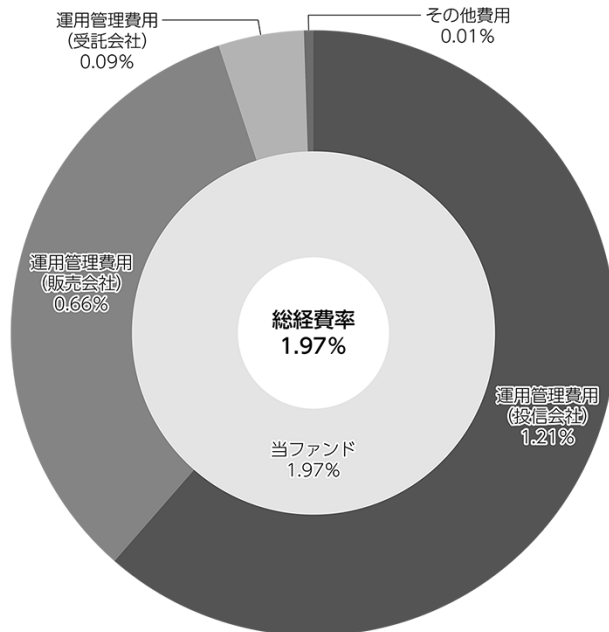
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.97%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。



## ○売買及び取引の状況

(2022年9月21日～2023年9月20日)

### 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		388	1,533,464	607	1,589,135
		(565)	( )		

(注) 金額は受渡代金です。

(注) ( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

## ○株式売買比率

(2022年9月21日～2023年9月20日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	3,122,600千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,922,717千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.79

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2022年9月21日～2023年9月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

# ○組入資産の明細

(2023年9月20日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>建設業 (11.5%)</b>			
ショーボンドホールディングス	13.5	23.2	135,859
大成建設	10.3	—	—
住友林業	50.5	45.4	187,592
積水ハウス	55.5	52.3	159,358
<b>食料品 (3.2%)</b>			
味の素	—	23.7	134,639
<b>化学 (9.6%)</b>			
信越化学工業	—	21	96,054
J S R	22.2	22.2	89,910
東京応化工業	—	15.3	137,638
太陽ホールディングス	26.6	—	—
ユニ・チャーム	18.3	15.2	81,867
<b>医薬品 (1.0%)</b>			
協和キリン	—	16.2	43,213
<b>ゴム製品 (3.7%)</b>			
ブリヂストン	27	26.1	156,730
<b>ガラス・土石製品 (—%)</b>			
フジミインコーポレーテッド	18.4	—	—
<b>鉄鋼 (1.1%)</b>			
東京製鐵	26	26	47,476
<b>非鉄金属 (—%)</b>			
AREホールディングス	44	—	—
<b>金属製品 (4.1%)</b>			
三和ホールディングス	117.4	83	173,221
<b>機械 (5.5%)</b>			
小松製作所	—	27.9	124,099
クボタ	44.1	44.1	105,156
ダイキン工業	2.2	—	—
<b>電気機器 (15.0%)</b>			
富士電機	27.1	16.1	110,091
オムロン	—	12.3	84,574
富士通	5.2	5	91,600
エレコム	43.9	—	—
アンリツ	51.6	—	—
アズビル	34	19.4	92,538
日本セラミック	19.7	30.1	77,688
芝浦電子	13.7	13.7	84,255
ローム	—	7.6	88,578

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
小糸製作所	18.5	—	—
<b>輸送用機器 (6.8%)</b>			
トヨタ自動車	73.4	70.1	196,209
ヤマハ発動機	—	22.7	91,730
<b>精密機器 (2.0%)</b>			
オリンパス	36.8	40.3	83,360
<b>その他製品 (2.0%)</b>			
ローランド	—	20.5	84,460
<b>電気・ガス業 (2.2%)</b>			
メタウォーター	67.4	48.3	91,238
<b>情報・通信業 (10.6%)</b>			
ラクーンホールディングス	37.5	—	—
T I S	34.9	36.2	124,347
トレンドマイクロ	11.9	18.7	110,049
日本電信電話	—	552.5	99,781
S C S K	36.4	42	109,872
<b>卸売業 (7.2%)</b>			
シップヘルスケアホールディングス	49.6	49.6	114,873
豊田通商	24.3	20.7	189,549
<b>小売業 (2.4%)</b>			
オイシックス・ラ・大地	23.9	—	—
丸井グループ	67	39.3	101,433
ニトリホールディングス	6.9	—	—
<b>保険業 (1.2%)</b>			
SOMPOホールディングス	7	—	—
東京海上ホールディングス	—	14.2	51,574
<b>その他金融業 (2.9%)</b>			
プレミアアグループ	92.3	76.3	121,851
<b>不動産業 (3.1%)</b>			
カチタス	—	37.7	83,392
サンフロンティア不動産	—	30.8	46,970
<b>サービス業 (4.9%)</b>			
ソラスト	77.7	—	—
メイテック	32.3	50	131,550
ダイセキ	18.2	18.2	75,985
合 計	1,387	1,733	4,210,371
	株数・金額	株数	金額
	銘柄数<比率>	39	39 <93.4%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

## ○投資信託財産の構成

(2023年9月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 4,210,371	% 90.9
コール・ローン等、その他	420,601	9.1
投資信託財産総額	4,630,972	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年9月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	4,630,972,830
コール・ローン等	415,229,430
株式(評価額)	4,210,371,700
未収配当金	5,371,700
(B) 負債	120,840,302
未払収益分配金	76,226,143
未払解約金	1,284,568
未払信託報酬	43,194,106
未払利息	1,239
その他未払費用	134,246
(C) 純資産総額(A-B)	4,510,132,528
元本	4,483,890,784
次期繰越損益金	26,241,744
(D) 受益権総口数	4,483,890,784口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,059円

(注) 期首元本額は4,602,898,338円、期中追加設定元本額は160,441,235円、期中一部解約元本額は279,448,789円です。

## ○損益の状況 (2022年9月21日～2023年9月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	99,574,072
受取配当金	99,844,927
受取利息	8
その他収益金	67
支払利息	△ 270,930
(B) 有価証券売買損益	466,736,279
売買益	746,844,046
売買損	△280,107,767
(C) 信託報酬等	△ 82,957,891
(D) 当期損益金(A+B+C)	483,352,460
(E) 前期繰越損益金	△377,218,668
(F) 追加信託差損益金	△ 3,665,905
(配当等相当額)	( 359,327,882)
(売買損益相当額)	(△362,993,787)
(G) 計(D+E+F)	102,467,887
(H) 収益分配金	△ 76,226,143
次期繰越損益金(G+H)	26,241,744
追加信託差損益金	△ 3,665,905
(配当等相当額)	( 359,327,882)
(売買損益相当額)	(△362,993,787)
分配準備積立金	29,907,649

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(84,990,075円)、費用控除後の有価証券等損益額(17,694,462円)、信託約款に規定する収益調整金(359,327,882円)および分配準備積立金(3,449,255円)より分配対象収益は465,461,674円(10,000口当たり1,038円)であり、うち76,226,143円(10,000口当たり170円)を分配金額としています。

## ○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	170円
----------------	------

- ◇収益分配金のお支払いは、決算日から起算して5営業日までに開始します。
- ◇収益分配金を再投資する方のお手取り収益分配金は、決算日の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰入れて再投資しました。
- ◇課税上の取扱い
  - ・追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)とがあります。
  - ・収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本と同額または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。収益分配金落ち後の基準価額が、当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。
  - ・受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。
  - ・個人の受益者の普通分配金については、20.315%(所得税および復興特別所得税15.315%、地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告を行い、総合課税(配当控除の適用はありません。)または申告分離課税を選択することもできます。
  - ・法人の受益者の場合は、税率が異なります。

※上記は、決算日現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更される場合があります。  
※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

(参考情報)

○社会貢献活動を行う団体への寄付につきまして

当ファンドでは毎年、地域社会への貢献を目的として、信託報酬の一部(日々の信託財産の純資産総額に年0.1～0.2%の率を乗じて得た金額)を、社会的課題に取り組む団体に寄付しています。

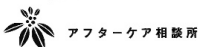
寄付先団体は主に、「社会福祉」「医療・健康」「教育」「環境」「児童支援」「女性支援」等の分野で活動する団体の中から選定しています。

なお、選定にあたっては、各団体の取組課題のユニークさや社会的な必要性、団体としての独立性等を重視するとともに、近年はSDGs(持続可能な開発目標)の目標達成への取組状況も加味しています。

### 【今期(第23期)寄付先のご紹介】

今期(第23期 決算日2023年9月20日)は信託報酬の中から総額4,222,446円を以下の7団体に寄付しました。

(五十音順)

安心と楽しいを一緒に育む	
アフターケア相談所 ゆずりは (社会福祉法人 子供の家) <a href="https://www.acyuzuriha.com/">https://www.acyuzuriha.com/</a>	 アフターケア相談所 <b>ゆずりは</b>
《団体概要》 「アフターケア相談所ゆずりは」は、児童養護施設や里親のもとを巣立った人や、虐待や貧困等の理由から親や家族を頼れず孤立している人たちへの支援を行う相談所です。住まいや、仕事、病気、様々な困りごとの相談を受け、生活保護の申請の補助、病院や不動産屋への同行等も行っており、ひとりひとりの相談者に寄り添っていくことを大切にしています。個別の相談対応の他に、「ゆずりは」の場所を拠点に、気軽に集えるサロンや、働く場として「ゆずりは工房」でのジャムづくり、高卒認定資格取得のための無料学習会、みんなでごはんの会、子どもへの不適切な行為をやめたい親を対象とした「MY TREEペアレンツ・プログラム」なども実施しています。「自分なんか生まれてこなければよかった」「生きている価値がない」と苦しみを抱えているひとたちが、出会い、つながり、安心できる時間を積み重ねていくことで、自分の暮らしを楽しみ、大切にできる気持ちが芽生え育まれていくことを大切に活動しています。	
《SDGs 目標》 1. 貧困をなくそう 3. すべての人に健康と福祉を	

特定非営利活動法人

OWS

(The Oceanic Wildlife Society)

<https://www.ows-npo.org/>



《団体概要》

OWSは1998年に設立した海の環境NPO法人です。海をとりまく自然とそこにすむ生き物を通して、「自然に親しむ・自然を学ぶ・自然の大切さを伝える」活動を推進しています。

現在、主に次の4プロジェクトに取り組み、さまざまな連携や協働を創出しています。

◆海の子プロジェクト：海離れ、自然離れが著しい現在、自然体験学習を通して子どもたちに海の自然や生き物とのふれあいの機会を創出しています。これまで3,200名以上の子どもたちが参加しています。

◆サンゴ調査プロジェクト：研究者との連携による、温暖化の影響評価のためのサンゴおよび魚類のモニタリング調査等を全国10以上の海域で実施しています。

◆海洋ごみプロジェクト：学校等への教材提供、講演、写真資料展、ごみ回収活動等、毎年5,000人以上を対象目標とする海洋ごみ削減の普及啓発を実施しています。

◆干潟保全プロジェクト：研究者、地元住民等多様な主体と連携・協力して行う希少干潟環境の保全活動です。紀伊半島、三浦半島を中心に黒潮流域の各干潟での調査も実施しています。

《SDGs 目標》

14. 海の豊かさを守ろう

すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指しています

認定特定非営利活動法人

キッズドア

<https://kidsdoor.net/>



《団体概要》

認定NPO法人キッズドアでは、2007年の設立以来「日本の子どもの貧困」に取り組んでいます。生まれてきた環境や災害などによって、子どもたちの将来の夢や希望に不平等が生じる社会はおかしい、困難な状況にある子どもたちにもフェアなチャンスのある社会を作りたいという想いで活動しています。

キッズドアが関わる子どもたちは、ご家庭の収入が厳しいため十分な教育が受けられず、進学や就職も不利となり、子どもたちが親世代になった時にもこの状況は連鎖してしまいます。この「連鎖」を断ち切るために、東京、宮城を中心に無料の学習支援や、子どもたちが毎日過ごせる食事の提供も行う居場所の運営を行っています。2022年度は、国内84拠点で学習支援や居場所を提供し、2,030人の小学生から高校生世代のお子さんに通っていただきました。本事業の学習支援には1,384人もの市民ボランティアの皆さんに関わっていただき、継続的に活動することができています。

《SDGs 目標》

1. 貧困をなくそう
4. 質の高い教育をみんなに

子どもの虐待防止に取り組む専門の民間相談機関

社会福祉法人  
子どもの虐待防止センター  
<https://www.ccap.or.jp/>



《団体概要》

社会福祉法人子どもの虐待防止センター(CCAP)は、1991年から主に家庭内で起こる子どもの虐待防止のために活動する民間の団体です(社会福祉法人認可は1997年)。当法人は、設立時より子どもを虐待から守るためには家族へのサポートが重要であることを活動の柱に据え、子育てに悩む親を対象とした電話相談や母親グループ「MCG(母と子の関係を考える会)」のほか、当法人の2つの独自プログラムである「CCAP版 親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム®」と「アタッチメント形成のための心理療法プログラム」を行っています。また里親・養親支援事業、研修とともに、公益事業として児童精神科を中心としたクリニックを開院しました。

虐待は子どもの人生に深い影を落とします。親もまた困難を抱えて苦しんでいることも多く、親を責めるだけでは問題は解決しません。私たちは民間の相談窓口として多くの方にご利用頂くとともに、活動を通じて温かいサポートの必要性を社会に発信していきます。

《SDGs 目標》

1. 貧困をなくそう
3. すべての人に健康と福祉を
10. 人や国の不平等をなくそう
16. 平和と公正をすべての人に

認定特定非営利活動法人

自然環境復元協会

<https://narec.or.jp/>



認定NPO法人

自然環境復元協会

Association for Nature Restoration and Conservation, Japan

《団体概要》

多様な生き物と共に暮らす社会を目指し、「身近な自然環境を復元すること。」「自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。」を使命に、日本国内にて主に3つの事業を行っています。

◆ふるさと未来創造プロジェクト

多くの農村が過疎化などの問題を抱えています。都市と農村を結びつけ協働することで、農山漁村の生態系を豊かにすることや、地域の問題解決と活性化を目指しています。

◆環境再生医制度

環境再生医の資格制度を運営しています。「自然環境」と「自然とヒトの関係」の再生を目指すSDGs視点の環境人材を、育成・支援しています。

◆レンジャーズプロジェクト

若手のボランティア希望者が地域の環境保全団体へお手伝いに行く環境保全ボランティアです。ボランティア希望者が環境活動を始めるきっかけを創出し、高齢化や人手不足などで困っている環境保全団体の課題解決を目指します。

《SDGs 目標》

- 2. 飢餓をゼロに
- 3. すべての人に健康と福祉を
- 4. 質の高い教育をみんなに
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12. つくる責任・つかう責任
- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 15. 陸の豊かさを守ろう
- 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

特定非営利活動法人

樹木・環境ネットワーク協会

[愛称：聚(しゅう)]

<https://www.shu.or.jp/>



《団体概要》

持続可能な社会を目指し、人と自然の調和のための活動を行っているNPO団体です。「森を守る」、特に里山を通じて自然との関わりを取り戻し、そこで活動する「人を育てる」活動も行っています。そして、社会へつなげるための「森と人を繋ぐ」をテーマに、企業や行政と連携し、



子どもたちの環境教育的活動や森づくり活動を推進・普及しています。  
「森を守る」・・・全国で定例的な整備・保全活動を進めています。里山をモデルに、人が自然に手を入れ、利用することでより豊かな自然環境を維持することができるような活動を目指しています。  
「人を育てる」・・・グリーンセイバー資格検定を軸に、セミナーや研修会等、環境活動を推進する人材の育成を行っています。  
「森と人を繋ぐ」・・・社会への普及啓発を目的に、観察会や自然体験活動の企画運営をしています。行政と連携した緑地の保全活動や、企業の社会貢献の提案や活動の受入れなども行っています。

《SDGs 目標》

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 8. 働きがいも経済成長も
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 13. 気候変動に具体的な対策を
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさも守ろう
- 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

障害者クライミング普及活動を通じて、  
多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています

特定非営利活動法人  
モンキーマジック

<https://www.monkeymagic.or.jp>



《団体概要》

「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、国内で18年以上にわたり、障害のある児童生徒・大人を対象としたクライミングスクール、そして障害のある方もない方も共に楽しめる交流型クライミングイベントの定期的な企画運営、講演会や体験会を実施しています。

クライミングは障害の有無に関係なく、同じ場所で同じルールで楽しむことができます。健常者と障害者が「助ける・助けられる」の関係ではなく、同じクライミング仲間として関わり、互いに壁を取り払い、理解しあうことで、多様性を認め合える価値ある機会となります。

障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく、それぞれの人が社会の一員として支え合う中で、安心して暮らし、一人一人が自分らしく生き、持てる力を発揮して元気に暮らすことのできる社会を目指しています。

《SDGs 目標》

- 3. すべての人に健康と福祉を
- 10. 人や国の不平等をなくそう

※上記7団体は、第23期計算期間にかかる金額を寄付させていただいた団体であり、第24期計算期間以降については、上記団体に寄付を行うとは限りません。

## 【前期(第22期)寄付先からの活動報告】

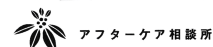
前期(第22期 決算日 2022年9月20日)に寄付を行った7団体から、以下の通り活動報告がありました。

(五十音順)

安心と楽しいを一緒に育む

アフターケア相談所 ゆずりは  
(社会福祉法人 子供の家)

<https://www.acyuzuriha.com/>



ゆずりは

### 《活動報告》

今年度のあすのはねのご寄付は、就労支援の一環として開催している「ゆずりは工房」でのジャム作りに活用させていただきました。ゆずりはの相談者の中には、虐待被害者やヤングケアラー状態でなんとか生きてきた多くの若者がいます。当初の相談では、生活困窮やネグレクト等の虐待被害であっても、支援を進めて行く中で、幼い頃からヤングケアラー状態であったことが明らかになるケースがあります。ヤングケアラーであった人は、相談機関にたどり着けても、安心な心の状態を取り戻すことは容易ではありません。長きにわたって、子どもとしてのびのびと安心して生きられなかった苦しみや辛さなどを言葉にして誰かと分かち合うこと、そして、自分が「生きていても良い」と思える大きな一助となるのが、「働ける」「誰かの役に立てる」ことでもあります。「ゆずりは工房」は、そのような境遇にある人たちに、お互いの苦しみや悲しみを分かち合う場所を提供しています。今年度は、年間43回開催し、延べ288名が参加しました。

すべての子どもたちが夢や希望を持てる社会の実現を目指しています

認定特定非営利活動法人  
キッズドア

<https://kidsdoor.net/>



### 《活動報告》

第22期のご寄付は、全国の大学進学を目指す高校生のためのオンライン学習会での支援ツールに活用させていただきました。高校卒業後の進路において大学進学率が向上している中、困窮世帯の高校生は予備校に通うことも難しい状況です。現在の大学進学では学力はもちろんですが、情報と戦略が必要不可欠です。複雑化する入試制度を理解しどのように準備していくかは、予備校に通っている子たちとの間で大きな格差となります。キッズドアでは全国の困窮世帯の大学進学を目指している高校生へ向けて募集を行い、オンラインによる学習支援で高校生に受験まで伴走しています。現在約100人の登録生徒がおり、全国各所からオンラインで繋がり大学進学に向けての取り組みをしています。いただいたご寄付で導入したシステムは、生徒の学習状況や志望大学までの目標達成度合いを可視化できるツールです。このツールを利用して受験戦略を立てることもでき適切な指導ができるようになりました。温かいご支援に感謝いたします。

社会福祉法人  
子どもの虐待防止センター  
<https://www.ccap.or.jp/>



《活動報告》

日頃より温かいご支援を賜りましてありがとうございます。

今期のご支援は、活動の柱である相談事業に参加するボランティアの活動に活用させて頂きました。ホームページのリニューアルの効果もあり、コロナ禍を経て、「子どもを叩いてしまった」「子どもがかわいく思えない」などをキーワードに、初めて相談を利用される方も増加傾向にあり、昨年度の相談件数は2,625件となりました。また母親グループ「MCG(母と子の関係を考える会)」にも新たな問い合わせが入っています。当法人の電話相談やMCGなどの事業は、研修を受けたボランティアが臨床心理士や行政経験のある専門職のサポートを受けながら対応に当たっています。各事業に従事するために行う研修にもご支援を活用し、延べ500名が参加することができました。

皆様のご支援の下、これからも相談を寄せて下さるお一人お一人に寄り添う丁寧な活動に努めて参ります。ありがとうございました。

認定特定非営利活動法人  
自然環境復元協会  
<https://narec.or.jp/>



認定NPO法人  
**自然環境復元協会**  
Association for Nature Restoration and Conservation, Japan

《活動報告》

ご支援いただいたご寄付は、レンジャーズプロジェクトの活動の維持・促進のために役立たせていただきました。レンジャーズリーダー研修会の開催などリーダーの育成・登用、また、ホームページやSNSによる、活動地やボランティアの募集といった活動拡大のための広報活動に活用いたしました。安全管理や活動体制の強化を図り、参加機会の増加や、ボランティア登録者数の増員に繋げることができました。

今年度は、新規の活動場所を2か所追加し、年間で423名のボランティアの方々の参加を得て、東京・埼玉・神奈川・大阪の各地で計43回の活動を行うことができました。また、ボランティア登録者数も4,733名にまで増やすことができました。

今後も、多様な生き物と共に暮らす社会の実現に向け、「身近な自然環境を復元すること。」「自然体験を通した豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。」を目指し、活動に邁進いたします。皆様のご協力とご支援に法人一同心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人  
樹木・環境ネットワーク協会  
[愛称：聚(しゅう)]  
<https://www.shu.or.jp/>



《活動報告》

2022年度においては、コロナ禍以前の保全活動をほぼ再開し、活動も活発になりました。反面、雑木林ではナラ枯れという突然樹木が枯死する現象が多発し、その対応に追われた年でもありました。枯死自体は社会的にも大きな問題となりましたが、私どもとしては、森の再生の一端ととらえ、整備・保全活動を進めています。また、自然観察会や子どもの自然体験活動も再開し季節ごとに実施することができました。

グリーンセイバー資格検定では、C B T試験を採用し、全国的に受験が可能となりました。受験者としては思うような結果を得ることが出来ず、C B T方式との関係性、広報の課題等を分析し、今後の対策を検討中です。

人材育成の一環で行っている「里山林塾」では、里山の整備活動を学ぶだけでなく、利活用や楽しみを実現する活動としても展開をしています。養蜂や休耕田の開墾など、興味のある分野でお互いに学びながら里山を活かし、自然を豊かにしていくものとして期待しています。

ママが元気になれば子どももしあわせに！  
シングルマザーが子どもといっしょに生き生き楽しく生きられるように、  
ママを勇気づけ、社会で活躍できる支援を行っています

認定特定非営利活動法人  
しんぐるまざあず・ふぉーらむ  
<https://www.single-mama.com>



《活動報告》

第22期のご寄付は相談業務に活用させていただきました。しんぐるまざあず・ふぉーらむの2022年度の相談受付件数は、メール946件、電話925件でした。コロナ禍で相談が急増した2020年度からは4割減ですが、2021年度からはほぼ横ばいで、コロナ禍以前と比べると2倍以上に増加したままの状態です。

コロナ禍による離職や失職などで経済的困窮に陥ったひとり親が多い中、昨春以降の物価高がさらに生活の厳しさに拍車をかけました。当団体のひとり親家庭調査で「主食の米が買えないことがあった」が56%など、衣食住を欠く状況が広がっています。子どもの不登校や障がい、親の介護など、家族の事情を抱える人も少なくありません。相談者の気持ちを受容し孤立をやわらげつつ、当団体の食料支援につなげたり、地元の支援団体や社会福祉協議会などにつなげたりと、「一人も取りこぼさない」ことに心を砕きました。LINEでの相談も2年目に入り、若いママたちとの連絡手段として有効に活用しています。

障害者クライミング普及活動を通じて、  
多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指しています

特定非営利活動法人

モンキーマジック

<https://www.monkeymagic.or.jp>



#### 《活動報告》

第22期のご寄付は、弊会の障害者クライミング普及活動のノウハウを日本全国に共有し、クライミングを通じた地域コミュニティ創造のため、日本各地の有志によるクライミングサークルの支援に充てさせていただきました。

クライミングサークルを「全国交流型クライミングイベント」と題して、各地で主催者と教育・医療関係者を繋ぎ、イベントの基盤づくりを行いました。

現在、北は北海道から南は沖縄まで、全国18地域(札幌・函館・富山・山梨・愛知・京都・大阪・島根・岡山・広島・徳島・高知・福岡・熊本・鳥取・北九州・宮崎・沖縄)に拡大することができました。

今後も外出機会の少ない障害当事者に向けて、スポーツの選択肢を広げ、社会参加、健康寿命の延伸に寄与します。そして障害者と健常者の相互理解を深め、多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指します。

全国47都道府県での展開を目指して、今後も人々の可能性を大きく広げることを目的として活動に邁進いたします。